

議事内容

令和6年1月29日（月）13時00分～13時45分
於：オンライン開催

< 出席者 >

- 日本経済団体連合会
人口問題委員会企画部部長 手島 恒明 経済政策本部長 酒向 里枝
経済政策本部副本部長 清家 武彦
- 日本商工会議所
産業政策第二部長 大下 英和 産業政策第二部課長 清田 素弘
- 全国商工会連合会
中小企業問題研究所長 土井 和雄
- 全国中小企業団体中央会
常務理事 及川 勝 労働政策部長 大谷 武士
- 全国商店街振興組合連合会
総務部長 浜野 光淑
- こども家庭庁
長官官房審議官（成育局担当） 黒瀬 敏文 成育局保育政策課長 本後 健
成育局保育政策課認可外保育施設担当室長 成育局成育環境課長 山口 正行
伊藤 涼子
成育局成育環境課児童手当管理室長 成育局参事官（事業調整担当） 里平 倫行
渡邊 由美子

（資料1関係）

- 日本経済団体連合会
 - ・ 令和6年度以降、こども未来戦略、加速化プランに基づき、事業主拠出金の使途が一部拡大されることとなった。一方で、拠出金率については令和10年度まで積立金残高等を踏まえ0.36%の範囲内で調整、令和11年度以降も現行の0.36%の範囲内とすることを念頭に検討、法定上限を0.40%に引き下げる法改正を行うということをお約束いただいた。こうした項目の実現と事業主拠出金事業の適正な執行管理を改めて強く願う。
 - ・ また、足元の出生数が急激に低下していることも踏まえ、各施策の予算見込みをお願いしたい。
 - ・ 適正な執行管理という点では、特に企業主導型ベビーシッター利用者支援事業については予算オーバーが繰り返されてきた。来年度以降同様の事態が起きないように、重ねて願う。
 - ・ 支援金制度の創設に伴い、事業主拠出金によって支援しなければならない事業が何かという点も含め、その在り方の整理が必要であるという点は、事業主団体共通の考えだと認識している。早期に議論を開始できるようにしていただきたい。

●日本商工会議所

- ・ 今回の内容については、これまでの議論を踏まえたものとなっていると理解している。適正な運用と執行管理をくれぐれもお願いしたい。拠出金率については令和10年度までの間、現行料率の0.36%からの可能な限りの引下げを検討いただき、令和11年度以降も0.36%の範囲内となるよう、運用規律の徹底をお願いしたい。
- ・ 繰り返しになるが、子育て支援の財源の在り方について、新たに支援金制度が創設される中で、事業主拠出金は事業主のみが負担することに合理的な理由があり、事業主として納得が得られるような用途に限るべきということは常々主張してきているところである。この点について令和6年度の早期から抜本的見直しに向けた協議を開始いただきたい旨、強く要請したい。
- ・ 併せて、本拠出金について、事業運営上の懸念が生じた場合は速やかにこの協議の場を開催し協議するとともに、現行の運営状況を確認する意味でも収支見込、将来推計を含めて、きめ細かな情報提供を引き続きお願いしたい。

●全国商工会連合会

- ・ 拠出金率について、当面の間0.36%に据え置く、また法改正によって法定上限を0.40%に引き下げるという点については、ある程度評価する。一方で、以前は5,000億円台だった拠出金充当事業の予算額が来年度には8,000億円と拡大しており、また新たな支援金制度についても、事業主をはじめ様々な方の拠出によって拡充して事業を行うこととなっている。それが出生率や出生数にどこまで効果があるのかという検証について実際行われているのかという疑問がある。
- ・ 我々が事業主拠出金を拠出するのは、少しでも出生率や出生数が改善し、事業主にも経済的な恩恵が将来的にあるということから負担しているものと理解している。その改善にあたって、どのような対策が適切であるか、どのような効果があるかといった点について、支援金制度の創設に伴ってより厳しい視線が事業主だけではなく国民全体から寄せられることになると思う。引き続き、各事業において適切な執行、各事業の効果の検証等をお願いしたい。
- ・ また、他団体とは異なり、我々は待機児童数等が非常に少ないエリアを管轄している団体である。このような状況の地域の事業主からも拠出金が出ているが、拠出金充当事業の中にはベビーシッター利用者支援事業など地域格差が大きいものがある。待機児童数も圧倒的に都市部の方が多い。引き続き、都市と地方の格差について、拠出金あるいは子育て支援制度自体がどうあるべきかという点について、厳しい目で検証していただきたい。

●全国中小企業団体中央会

- ・ 政府の方から中小企業の賃上げについて強い要望があったが、我々としては原資の確保、価格転嫁、生産性の向上をフルに活用し、それを実現すべく努力をしているが、賃上げの原資を見ても中小企業への負担が今後続くと考えている。
- ・ 支援金制度が導入されることとなり、拠出金の負担についてもすぐ抜本的な検討を開始していただきたい。

●全国商店街振興組合連合会

- ・ 令和6年度の拠出金率が据え置かれたこと、令和10年度まで現行料率の範囲内で調整すること、法定上限率を引き下げる法案を提出する予定とのことについて、是が非でも実行していただきたい。
- ・ 商店街、中小小売店は存続の危機に瀕するほど厳しい状況にあるので、引き続き執行管理していただき、また範囲内での検討から一步進んだ拠出金率の引下げについても検討していただきたい。

(資料2・3関係)

●日本経済団体連合会

- ・ 企業主導型保育事業については、政府からの待機児童対策への協力要請を踏まえ従業員の福利厚生の一環として企業の自主的な取り組みを促すため、事業主拠出金で全額負担している事業である。こうした趣旨から、待機児童がいない地域も含めた全国の企業の負担に基づき運営されていることを踏まえれば、制度の趣旨に沿った範囲で対応していくことが大原則であると考えている。
- ・ 今回の提案にある地域枠の弾力措置の運用改善案については、本事業の制度の趣旨を踏まえた提案であると受け止めており、賛同する。事業者及び保護者への丁寧な説明と適切な運営をお願いする。
- ・ 共同利用契約については、事業の適切な運営を担保するためにも必要であると考えており、契約締結を前提に共同利用を促していく提案に異論はない。制度の趣旨を踏まえれば企業側が主体的に共同利用契約を締結したうえで、従業員が安心して利用できるようにすべきである。共同利用契約を結ぶ意義について、国家戦略特区 WG の皆様のご理解をいただけるよう丁寧な説明をお願いする。
- ・ 能登半島地震に係る企業主導型保育事業の災害対応の提案について、異論はない。
- ・ ベビーシッター利用者支援事業については、先に意見を申し上げた通り。

●日本商工会議所

- ・ 国家戦略特区提案への対応については、説明内容に異論はない。WG に対して本制度の趣旨や経緯を含め丁寧に説明し、ご理解を求めている。
- ・ 能登半島地震への対応について、被災の範囲がかなり広く、県や地域によって罹災の状況や程度もかなり異なるように伺っている。復旧・復興にはかなり長い時間を要するとの見通しもあるため、今回の提案をベースにしながら現場のニーズと今後の変化を踏まえ、適切かつ継続的な支援をお願いしたい。
- ・ 企業主導型ベビーシッター利用者支援事業について、ご説明の内容を承知した。今後の利用状況について予算に影響を与える事象が発生しそうな場合には、定例の協議の場以外にも、タイムリーに必要な応じて協議の場を設定し、ご説明をお願いしたいと従前から提案している。制度の抜本的な見直しについても検討をお願いしたい。

●全国商工会連合会

- ・ 国家戦略特区提案への対応について、政府案で結構である。以前の議論で申し上げたが、そもそも企業主導型保育事業の申請の段階で、共同利用企業の候補も含め詳細にニーズ調査を行った上で本事業に応募いただいている事業者であるということを考えると、この要望は本来の趣旨を理解していないものであると思う。制度の趣旨やどのような経緯での申請となっているのかという点について WG の方でしっかり説明いただき、ご理解いただけるようにしていただきたい。
- ・ 能登半島地震への対応についても、原案のとおりで結構である。幸い被害の大きい半島北部に企業主導型保育事業所は所在しないが、一方で、本事業の実施主体が都市部に集中していると改めて認識した。
- ・ 企業主導型ベビーシッター利用者支援事業について、前回厳しく申し上げた通り非常に利用の偏りがあり、かつ予算が来年度大幅に増額されるが、キリがないという印象。どこかでキャップをはめなければいけないと思うので、将来的な、抜本的な見直しについても早急に検討いただくとともに、まずは利用の実態についてもう少しつまびらかに示していただきたい。来年度の課題として受け止めていただきたい。

●全国中小企業団体中央会

- ・ 共同利用契約について、しっかりと契約を結ぶ意義やこの制度の役割の周知を徹底していただき、コンセプトについて理解を深めていただきたい。
- ・ 能登半島地震について、支援内容の早期執行、実現できるようご指導方お願いしたい。

●全国商店街振興組合連合会

- ・ 企業主導型保育事業について、事業の趣旨を丁寧に説明していただき、入所保留通知の弾力措置や共同利用の後押し等運用面での見直しでぜひ進めていただきたい。
- ・ 災害対応およびベビーシッター利用者支援事業について、特に異論はない。

●こども家庭庁

- ・ いただいた意見を踏まえ、3点それぞれについて適切に進めて参りたい。

以上